

全国ミニバスケットボール大会における ゾーンディフェンスの禁止について

平成27年11月21日
第47回全国ミニバスケットボール大会実行委員会

1 マンツーマンディフェンスとゾーンディフェンス

(1) マンツーマンディフェンスの見分け方

- ・マンツーマンの意識がある。(声・手・ポジション・感じる・アイサイン)
- ・ボールや相手と共に動いている。
- ・守るゴールのハーフコート内のスリーポイントエリア付近(約7m)からはディフェンスをはじめている。
- ・オンボールには1.5m以内を目安としている。
- ・オンボールのダブルチーム(トラップ)は良いが、トラップが収束したら直ちにマッチアップをし始めている。

(2) ゾーンディフェンスの見分け方

- ・上記に反すること。
- ・オフボールのポジションディフェンス(3線)が、ミドルラインを完全にまたぎ越している。
- ・オフボールのプレイヤーに対しての数的優位な守り方をしている。
- ・オフボールのオフenseのポジションチェンジで対応していない。またスイッチをしている。

(3) 上記以外のマンツーマンディフェンス

- ・スイッチ・ローテーションは構わないが、その後はマッチアップをする。
- ・ヘルプはしても構わない。

運営上の留意点でルールではありませんが「故意でない技術不足によるところの上記以外のことが起こったからといって、それがすぐにゾーンディフェンスという訳ではない。」ということをおさえておきます。

2 コミッショナー制度の活用

(1) 本大会では、全試合においてテーブルオフィシャル席後方に1名コミッショナーを配置し、コミッショナーと審判が協力して次の任務を行う。

- [任務]・明らかにゾーンディフェンスと判明した場合には、時計が止まっている時にコミッショナーは審判に合図をする。
- ・審判にその旨を伝え、審判は双方のコーチをTO席前に招く。
 - ・コミッショナーは、該当チームのコーチに内容説明をした後、警告を与える。
 - ・その間プレイヤーはベンチ付近に待機させる。(タイムアウトではないので)その後、必要ならば、コーチからプレイヤーに説明する時間を与え、ゲームを再開させる。
 - ・次の違反からは、ベンチのテクニカルファウルが適用される。

[試合後の処置]・速やかに大会運営本部に報告する。

(2) 違反(ゾーンディフェンスにおけるテクニカルファウル)をしたコーチへの事後処置

- ①試合後、速やかに本部で指導をする。
- ②当該チームの責任者は、定められた書式(日本ミニバスケットボール連盟作成)により報告書を作成し、直ちに大会本部に提出をする。
- ③状況により、各都道府県ミニバスケットボール連盟が、日本ミニバスケットボール連盟に報告書を提出する。
- ④当該コーチは、日本ミニバスケットボール連盟が行う特別講習に参加しなければならない。